

# 友の会との両輪で迎える

## 長浜城歴史博物館 ②

### 30周年



よみがえった昭和の長浜城

長浜駅の西側、湖畔に堂々と立つ長浜城は、市制40周年を迎えた昭和58年4月、歴史博物館として開館した。その事業資金の半分近くにあたる約4億3千万円は市民などからの浄財によるものだった。豊臣秀吉が長浜に城下町をつくって400年。豊公園として親しまれてきた城跡に、待望の城が市民の力で再興されたのだ。

それが起爆剤となり、平成元年には、壊されそうになったまちなかの銀行の建物を買い戻して黒壁ガラス館がオープンするなど、全国に知られる長浜のまちづくりが始動した。

そんな長浜城歴史博物館の特色のひとつは、友の会活動がとて活発なことだ。長浜城歴史博物館友の会（以下「友の会」）は、歴史を通して地域に根ざした活動を展開しようとして、昭和60年に誕生した。現在、会員は湖北を中心に約700人。12万人都市にしてはかなりの多い数だ。年間20以上にもおよぶ博物館事業を円滑に進めているのも、友の会の自主

的な活動があればこそだろう。

#### 一門衆と黄母衣衆

長浜城には、「一門衆」「黄母衣衆」と呼ばれる人たちが出入りしている。ん、何者？ これは、友の会有志による、より強力なサポーター軍団。長浜城ならではのネーミングが特別感を出している。

「一門衆」は、平成18年に開催された「北近江一豊千代博覧会」に際してミュージアムショップや受付のサポート、来場者への展示説明などをおこなう組織として結成された。現在も30人ほどが交代で展示説明にあたっているが、湖北の歴史やまち案内ならお任せという勉強熱心なみなさんで、観光ボランティアガイドとして活動している人も多い。

秀吉の家臣団を表す一門衆のリーダーは「所司」と呼ばれる。

「退職後、地元のことを知りたかった」と思って友の会に入会しました。そこで勉強したことを活かしたいとボランティアガイドもしています



▲友の会会員の発案から始まった清掃ボランティア。毎月17日朝7時から1時間、お城周辺のそうじを続けている



▲博物館入り口の正月用の飾りも会員の手づくりだ

#### オリジナル企画が好評

講座の受付や見学会などの立案・運営を職員とともに担当するのが「黄母衣衆」のみなさん。黄母衣衆とは、長浜城主だった秀吉の馬の護衛にあたっていた親衛隊からとった名称で、平成21年に発足した。

その代表者である番頭の榎並伸地さんは、「見学会がスムーズに進むよう下見に出かけて、場所の確認はもちろん、食事のメニューも吟味しているんですよ。たまにはハブニングもあるけれど、みなさんに交流しながら楽しく参加してもらえよう、旅行会社にはできない長浜城ならではの企画を心がけています」と楽しそうに話す。



▲展示案内をする一門衆の富岡秀雄さん。ガイドの目印は特な半被だ



▲講演会の受付には黄母衣衆のメンバーが2班体制で当たる



▲日本三大山城のひとつ、岩村城（岐阜県）への臨地見学会（2011年）

博物館では、11月まで「羽柴秀吉 天下統一への足跡」展が開催される。それに合わせて今年度は、「豊臣秀吉を基礎から学ぶ講座」（全6回）や、真田家ゆかりの地を訪ねる旅などが予定されている。また、毎月17日朝の清掃、古文書類の整理作業、友の会だよりの発送などにも会員が協力している。

長浜城は今年再興30周年を迎えた。片山勝館長は、「博物館と友の会は、車の両輪の如くwithの精神で活動を続けてきました。これからもともに長浜の遺産を活かした美しいまちづくりに務めたい」と語る。

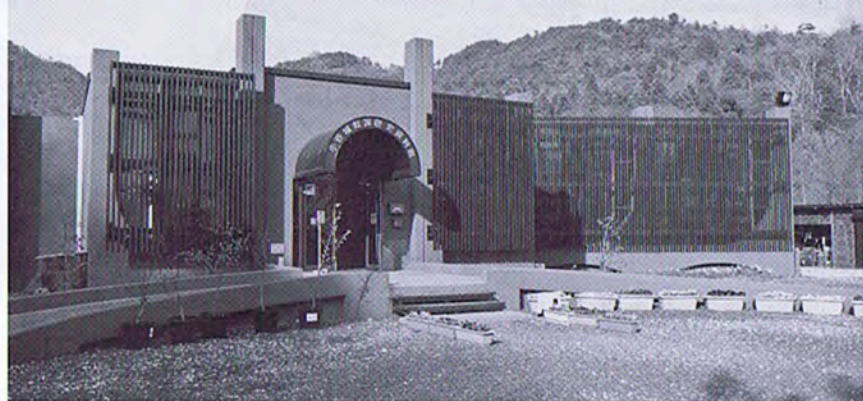
学芸員という専門の立場と市民との橋渡しの存在ともいえる友の会。年会費2000円（普通会員）で受けられる魅力的な特典も多い。また、人物、古文書、美術工芸、考古民俗という研究部会があり、それぞれにテーマを見つけた人たちが学びながら、興味を掘り下げている。

（らん）

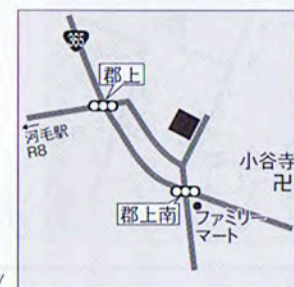
〒526-0065 長浜市公園町10-10  
電話 63-4611  
開館 9:00~17:00  
休館日 無休(展示替等による休館日あり)  
★入館料 大人400円(320円)  
小・中学生200円(160円)  
\*( )は20名以上の団体  
ウェブサイト <http://www.city.nagahama.shiga.jp/section/rekihaku/>

# 語り部に 遭遇すればラッキー

## 小谷城戦国歴史資料館 ⑩



背後にそびえるのは浅井家の居城があった小谷山。その歴史がジオラマやパネル、古文書などで紹介される。地元の小谷城語り部さんも時々出入りして、運がよければ丁寧に案内してもらえませんか!? 小谷城址に行くときは必見の資料館。(み)



▲ジオラマ、復原図、ビデオが揃い、戦国時代へ最接近

〒529-0312 長浜市小谷郡上町139  
電話 78-2320  
開館 9:30~17:00  
休館日 火曜日(祝日の場合翌日)  
★入館料 一般300円(240円)  
小中学生150円(120円)  
\*( )は20名以上の団体  
ウェブサイト <http://www.eonet.ne.jp/~odanijou-s/>

# 虎御前山のふもとで リアルな戦国気分

## 虎姫時遊館 ⑳



館内右手は、小谷城を攻めるため、織田信長、豊臣秀吉らが陣を張った虎御前山のジオラマが据えられた歴史ゾーン。左は和室の文化ゾーン、中央の展示室では企画展や、各種展示もおこなわれる。本物の虎御前山を目の前に見ながら、リアルな戦国気分を味わうことができる。(み)

▲虎御前山のジオラマで信長や秀吉の陣を確認



〒529-0111 長浜市三川町1635-2  
電話 73-5030  
開館 8:30~17:15  
休館日 毎週月曜・祝日  
入館料 無料

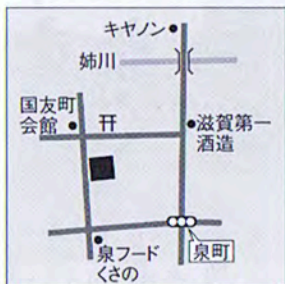
# ホンモノの鉄砲の 重さにビツクリ

## 国友鉄砲の里 資料館 ㉓

天文12年(1543)の鉄砲伝来直後から生産を始めた国友では、ネジの開発によって大量生産が可能となり、戦国時代の戦略にも影響を与えてきた。ここではホンモノの鉄砲や国友鉄砲にまつわるパネル展示のほか、国友が輩出した科学者や文化人を紹介している。(み)



▲先人の知恵と技が込められた大小の鉄砲

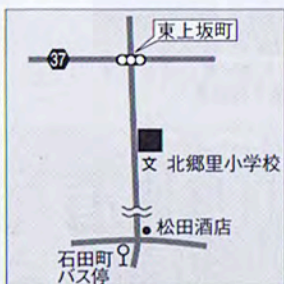


〒526-0001 長浜市国友町534  
電話 62-1250  
開館 9:00~17:00  
休館日 年中無休  
★入館料 一般300円(240円)  
小・中生150円(120円)  
\*( )は20名以上の団体  
ウェブサイト <http://www.kunitomo-teppo.jp/>

# 弥生時代の落書きもある!?

## 長浜市文化財 保護センター ㉔

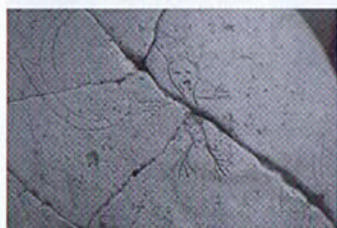
長浜市内にはおよそ800もの遺跡が確認されているという。調査の様子や出土品ってどんなの?...と興味をもったらここを訪ねよう。土器などが展示されるほか、勾玉づくり、火起こしなどの体験もでき、校外学習の人気スポットでもある。まさに、地域の足元を知ることができる施設だ。(み)



〒526-0802 長浜市東上坂町981  
電話 64-0395  
開館 8:30~17:15  
休館日 土曜・日曜・祝祭日  
入館料 無料  
ウェブサイト <http://www.city.nagahama.shiga.jp/index.cfm/8,186,12,109.html>



▲完全な形で発掘された土器も多数。ていねいな解説がうれしい



▲こんな落書きが残った壺も!